

海外便り

エチオピア通信 (5)

中山 実

1. はじめに

エチオピアでは、ようやく、春より断続的に行われてきました計画停電が7月中頃に終了しました。原因は、単純に“水不足”による発電能力不足のためです。当初は週1回の計画停電でしたが、週2回の停電に変わるのには、そう時間がかかるものではありませんでした。

エチオピアは、アフリカ特有の気候でして、雨季(7月から9月中頃)と乾季しかありません。特に、首都アジスアベバは標高が2,000m以上ですので、気候も良く過ごしやすいのですが、毎年、エチオピア国の殆どで、短い雨季のため水不足という状況が多々発生するようです。アジスアベバでは感じる事はありませんが、乾季の間では、地方の渇水、飢餓が伝えられ、牛や羊の家畜に多大な影響を与え、人間への影響も多大な事、諸外国への援助の要請等、様々な情報がテレビで放映されていました。

アジスアベバの現在は、7月からの雨季による多雨の影響で水不足が解消されて、計画停電も中止となっています。小耳に挟んだ情報では、新たな発電機を購入し、建設を始めるとの情報がありますが、定かではありません。



2. 意志の疎通と言語

エチオピア通信(第3回)で、エチオピア人の頑固さを、教科書作りでの苦勞を例に挙げて書きましたので、覚えて頂いている方もいらっしゃると思いますが、エチオピアでは、英語が第二公用語になっているので、技術移転では専ら英語が使用されます。

英語が第二公用語となっている理由は、エチオピアが発展途上国であるがゆえに、技術等の専門書は勿論の事、基本的な事柄の書かれた本についても、最初は、外国の教科書等に頼らざるをえません。エチオピアの言語に翻訳されている本の出版が皆無に等しいからです。

この事は逆に、英語の出来る事が高校、大学と進学するための絶対条件となっている事を意味します。貧しさもありますが、学業に対する意欲があっても、進学ができないという状況が作り出されているようです。このような背景より、自然と英語が第二公用語とならざるをえなかったと思います。

外国人が書いた本でも、殆どと言って良いほど、日本語に訳されて出版されている日本では、考えられない事です。この点においても、日本とエチオピアの置かれた状況の違いを感じる事ができます。

私自身、英語が堪能でないために、前日に伝えたい事や、技術移転後の確認作業時に、紙に英文を書いて、説明を行います。瞬時のアドバイス等の技術移転においては、すぐに単語が出て来ず、非常に歯がゆい思いをする事が多々あります。その時ばかりは、申し訳ないという気持ちになりますが、訓練センターのインストラクター達は、あまり英語が話せない事とやかく問題にしません。

私が、伝えたい事があったのですが、うまく言葉が出てこない時に、「申し訳ない。調べて後で話すよ」と言うと、彼らは直ぐに「日本人もエチオピア人も英語は第二外国語だから問題ないよ」と言ってくれます。国は違えども、同じ分野の技術者ですので、技術的な事は、伝えたい気持ちを強く持って、少しの想像力があれば何とかなる事は確かです。

勿論、インストラクターから私への質問において同じような状況があっても、何とか彼らの言いたい事がわかるからです。しかしながら、なぜ、エチオピア人が、これだけ言語に対して寛容なのかがわからなかったのですが、最近、ある状況を聞いて納得する事が出来ました。

A君とB君が訓練生として訓練所にやって来たそうです。彼らの様子を見てみると、彼らは英語が堪能でないにも関わらず、英語で会話をしているというのです。それも、四苦八苦しながら、たどたどしい英語を使用してです。誰



写真—1 授業の一コマ（アスファルトディストリビュータ）



写真—2 舗装された道路

が聞いても、なぜエチオピアの言語で話さないのかと思われると思います。しかしながら、この背景には、エチオピアの民族構成に大きな理由があったのです。

エチオピア通信（第1回）で、エチオピアの民族は非常に多彩でアムハラ族、ティグレ族、オロモ族等々に分かれていますと簡単に触れさせて頂いたと思いますが、それと同じように言語においても、エチオピアでは、約80の言語が話されているために、エチオピア人同士といえども会話をする事は容易ではないのです。

日本で販売されている観光ガイド本を参照してみても、公用語としてアムハラ語、テグリニャ語、オロモニャ語等々のいくつかがあげられていますが、大きく4つのグループ

に分けられます^{*)}。

① セム族のエチオピア諸語

ゲズ語（古典エチオピア語）、アムハラ語、ティグリニア語、ティグレ語、ゲラゲ諸語、ハラル語、アルゴッパ語等。

② クシ諸語

オロモ語、ソマリ語、アファール語、アガウ語等。

③ オモ諸語（オモ川流域を中心に話されている諸言語）

ウオイラッタ語、カファ語、ゴファ語、ハマル語等。

④ ナイル・サハラ語族のナイル諸語に属する言語（主にスーダン、ケニア国境付近）

アニューワ語、ヌエル語、ボディ語等。

このように、ざっと挙げるだけでもかなりの言語が存在します。

エチオピア国営TVにおいては、毎時ニュースが流されるのですが、それぞれは、代表的な言語で放送しているので、エチオピア人にとっては、自分の言語を話している放送時間にニュースを見る必要があるらしいのです。

このようにエチオピアでは、英語が第二公用語とされており、首都アジスアベバでは英語がかなりの人達に使われていると言っても、エチオピア人同士の会話自体が容易でない事から、言語に対する寛容な気持ちが根付いているのだと思います。

日本では、海外で技術協力の仕事を行いたくても、英語を話す事に自信が無いために、諦めている方が多数いると思います。私も、本プロジェクトに参加する事になって、自分の英語力でかなり苦勞していますが、言語を話す事よりも、伝えたい気持ちと少しのチャレンジ精神を強く持つ事で、何とか会話が出来ている状況です。勿論、英語を巧みに話せるに越した事はありませんし、私自身、英語を話せない事で、エチオピア人と色々な事で触れ合う機会を失っていると思う事も度々有るのも事実です。なので、もう少し、英語の勉強をしなければいけないと思う今日この頃です。

それでは、失礼します。

—なかやま みのる JICA 派遣専門家、国土交通省近畿地方整備局—

*：『エチオピアのしおり—2001—』、在エチオピア日本人会婦人部、p.2